

2018年11月11日

福音書からのメッセージ

皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。

(マルコによる福音書12章44節)

イエス様は神殿の賽銭箱の向かい側で、人々がお金を入れる様子を眺めていました。まず、金持ちがやってきました。彼はたくさんのお金を投げ入れます。なぜそれが分かったかという、賽銭箱がそのような作りになっていたからです。

当時使われていた賽銭箱の口のところはラッパのように広がっており、お金を入れると大きな音を立てます。今の硬貨を思い浮かべてみても、価値の高いものの方が大きく、また重たくできています。金持ちは高額硬貨をたくさん入れたのでしょう。そしてその音は、きっと神殿中に鳴り響いたのだと思います。

わたしたちにも、見栄をはり、人から良く見られたいという思いがあると思います。神殿で多くをささげた人は、その音によってたくさんの人の注目を集めることとなります。それは金持ちにとって、とても気持ちのよいことだったことでしょう。

一方、貧しいやもめはレプトン銅貨二枚を投げ入れました。レプトン銅貨とは、当時の貨幣のうちで一番価値の低い硬貨でした。軽くて小さなそのコインを投げ入れたところで、賽銭箱からはほとんど音は聞こえなかったと思います。しかしイエス様は「この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた」と言われます。金持ちとは比べ物にならないほど、わずかな額しか入れなかったにも関わらずです。

彼女は持っているものすべてを、賽銭箱に投げ入れました。もう手元には何も残ってはいません。この「やもめ」と呼ばれる人たちは夫に先立たれた方のことで、とて



も貧しい暮らしを強いられ、生きていたそうです。今のように遺族年金や社会保障制度などもなく、生活すべがありませんでした。

ではどうやって、これから生きていくのでしょうか。

彼女は神殿で、持っているすべてを手放しました。それは、すべてを神さまにお委ねするというを示しています。海でおぼれている人がいたとしましょう。その人が助かりたければ、手を差し伸べてくれる人に自分の身を任せることが必要です。手足をバタつかせて自分の力で泳ごうとしたり、力を入れて体を硬直させてしまったりしたら、一緒に沈んでいくことでしょう。また、「これにしがみついている物から手を放さないと、安全な場所にはたどりつくことができません。

神さまに委ねるとは、こういうことなのです。自分が大切にしているもの、執着しているもの、握りしめているものから解放されたときに、わたしたちは神さまの子として生かされるのです。

わたしたちも貧しいやもめのように、神さまにすべてを委ねていけたらと思います。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>